

6月2日は記録的な大雨の中、お子様のお迎えありがとうございました。  
下校の方法が途中から全員引き渡しになり、ご迷惑をおかけしたまし。その経過についてお知らせします。

前日から大雨で危険な状態になることは予想されたため、5・6時間目をカットし、13:10～から下校する計画を立てました。東部中校区の2小学校の校長とも相談しました。

当日も、雨雲レーダーをはじめ各種の情報を見比べながら、この時間なら下校できると予想していました。

給食時に教師が見回りに行ったときには、冠水まではいかないものの、あふれだしそうな水かさになっている川や用水路など、危険箇所が数か所ある報告を受けました。その箇所に教師が立哨し、安全な下校を見守る計画を立てました。

「すぐーる」メールでは、朝の登校時に、車で送ってきた保護者向けに、一方通行で校舎の体育館西側の道を南から北へと進み、正門からロータリーを回ったところで子供を乗せ、そのまま正門を出て北へ進む案内を10:30に送信しました。

その後、給食時から「自転車を置いて迎えに行きます」という保護者からの電話が増えてきました。連絡のあった子には学校で待機するように本人に伝えたいうえで、給食放送でも、自転車下校に際しての注意事項を2度流しました。

そして、13:10に下校を開始しようとしたのですが…。

雨雲レーダー等の予想とは違い、あまりにも強風で、目を開けておられない状態。「この状態で帰らせるのは危険です」という教師の報告を受けました。

わたしは咄嗟に田んぼに落ちそうになる生徒の姿や風の中を自転車を降りて引っぱりながら歩く生徒の姿が目に見えなくなりました。

下校を取りやめ、13:16にメールで「一時待機、なるべくお迎えを」と2度目のメールを出しました。

すると、2台の電話がひっきりなしに鳴り、「迎えに行く」という連絡をいただきました。それと同時に迎えの車がどんどん来るようになりました。

職員は自主的にやるべきことを考え、各自配置につき、迎えに来た車を誘導する人、放送で呼び出す人、教室で生徒と待機する人、電話対応をする人、校外に出て様子を知らせる人、雨漏りに対応する人に分かれて動き出しました。

30分ほどすると半分以上の家庭から「迎えに行く」という電話をいただきました。